

「サッポロ生ビール黒ラベル」新CM完成のお知らせ

~「大人エレベーター」シリーズ第10弾は45階に斉藤和義さんが登場!~

サッポロビール(株)では、「サッポロ生ビール黒ラベル」の「大人エレベーター」シリーズ第10弾を2012年3月30日(金)より全国で放映します。

今回、人気シリーズ第10弾の共演者として登場するのは、45歳大人代表の斉藤和義さんです。自分らしく生きることを大切にする「大人」であり、少年のような無邪気さを忘れない斉藤さんと妻夫木さんとの会話の中で描かれる世界観が、30代を中心とした若い世代のお客様への新たな気づきを生むと共に、既存のお客様を中心とした「大人」の方々にも共感していただけることを期待しています。

サッポロ生ビール黒ラベルは「大人の生。」をコミュニケーションテーマに掲げ、独自の強みである「生のうまさ」に加えて、「自分なりの価値観を持った大人同士が飲むビールである」という価値訴求を行っています。そんな大人たちと出会えるのが、妻夫木聡さんがメインキャラクターのCM「大人エレベーター」シリーズです。

サッポロ生ビール黒ラベルは、本コミュニケーションをはじめとして、様々なお客様接点において「大人の 生」を訴求することで、ブランドの更なる活性化を図っていきたいと考えています。今後のサッポロ生ビール黒ラベルに是非ご期待ください。

記

1.タイトル 黒ラベル 大人EV 45歳 愛するとは篇 30秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 女性とは篇 30秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 歌うこととは篇 30秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 自分とは篇 30秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 弱さとは篇 30秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 愛するとは篇 15秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 女性とは篇 15秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 自分とは篇 15秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 弱さとは篇 15秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 愛するとは篇 唐揚げ 15秒

黒ラベル 大人 EV 45歳 女性とは篇 唐揚げ 15秒

以上、計11タイプ

サッポロビールのホームページで、CM未公開の会話をまとめたムービーを 公開しています。

2.放送開始 2012年3月30日(金)~

3.C M 内 容 魅力ある大人たちに出会える「大人エレベーター」を舞台に、メインキャラクターの妻夫木聡さんに加え、45歳大人代表の斉藤和義さんを迎えて、実に味わいのある世界観が生まれました。生ビールを交わしてこそ生まれる「大人の世界観」を哲学的に描き、"大人の生"に相応しい「サッポロ生ビール黒ラベル」の魅力を表現しています。

4.エピソード

シリーズ第10弾となる本作品では、共演者に斉藤和義さんを迎え、都内のスタジオで撮影されました。エレベーターが45階に到着すると、煌煌と輝く電飾が目に飛び込み、どこか不思議な雰囲気の漂う屋台街の光景が広がります。その雑踏の中、堂々とした存在感で妻夫木さんを迎えるのが、45歳大人代表の斉藤和義さん。カラフルな裸電球や提灯が、どこにもないような不思議な屋台空間を際立たせます。屋台の雰囲気と味のあるカウンターで話をする2人の姿は、肩の力が抜けて、自然体で語り合っているように感じられました。また、妻夫木さんの問いかけに対する斉藤さんの素朴な言葉の数々には、ユーモアがありながら自分を貫く意思が感じられ、妻夫木さんはその言葉を一言一言深く噛みしめているようでした。

そして、おいしそうな香りを漂わせながらカラッと揚がった唐揚げを黒ラベルと 一緒に楽しむ妻夫木さんと斉藤さんの様子は、見ているだけで思わず食べたくな ってしまうほどでした。

5 . キャラクター 【メインキャラクター】妻夫木 聡 【魅力ある大人】斉藤 和義

<参考> С Mキャラクター プロフィール

【妻夫木 聡】

映画「ウォーターボーイズ」(2001年)、「ジョゼと虎と魚たち」(2003年)などに主演し、数々の賞を受賞。2009年にはNHK大河ドラマ「天地人」で主演。また2010年秋に公開された主演映画「悪人」での演技が高く評価され、日本アカデミー賞最優秀主演男優賞などを受賞。2012年6月16日(土)には、主演映画「愛と誠」(三池崇史監督)が公開予定。

【斉藤 和義】

1993年にシングル『僕の見たビートルズは TV の中』でデビュー。以降、『歩いて帰ろう』『歌うたいのバラッド』など数々の名曲を生み、音楽ファン、ロックファンのみならずアーティストからも高い支持を集める。2010年には『ずっと好きだった』を収録したアルバム『ARE YOU READY?』、2011年には15枚目のアルバム『45 STONES』、テレビドラマ「家政婦のミタ」主題歌『やさしくなりたい』をリリース。楽曲提供やプロデュース等も積極的におこない、自他共に認めるライブアーティストでもあり、ライブハウスからアリーナクラスまで様々なスタイルでライブやイベントに参加。



